

オオアシトガリネズミ

Sorex unguiculatus

トガリネズミ科



オオアシトガリネズミ

名前の由来

足の大きなトガリネズミであることから。口先が尖っていることからトガリネズミと呼んだと思われる。ネズミではなくモグラに近い（食虫目）。漢字名：大足尖鼠

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(葦原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ

形態的特徴

トガリネズミの仲間は目が非常に小さい。

オオアシトガリネズミは日本のトガリネズミの中では最大で、頭胴長（鼻先から尻尾の付け根まで）54～97mm、尾長40～53mm、後足長（後足の指先から踵まで）12.4～15.5mm。前足が大きい事で他のトガリネズミ類と容易に識別が可能（爪なし7.8～10.3mm、爪を含めて9.6～12.6mm）。

類似種：ヒメトガリネズミ、エゾトガリネズミ。

前足の爪が長く幅が広い事で他の2種とは区別できる。



右前足 右後足



オオアシトガリネズミ

生息環境・分布

あらゆる場所に棲むが、特に落葉層や腐植層の厚い場所、湿潤な環境に多い。

分布：国外では、サハリン、ロシア沿海州に分布。国内では、北海道、国後、色丹に分布。北海道内では、全域の平地から高地に広く分布。

十勝地方では、平地から高地の草地や樹林に普通に生息。

食性・他生物との関わり

小型の昆虫類、ミミズ類など。生体はフクロウ類、モズ類、死体はカラスが捕食するという。強烈な匂いのためなのかあまり他の動物に食べられないという。

繁殖生態・寿命

4～10月にかけて1～3回出産し、一度に3～7子を産む。寿命は18ヶ月。

配慮事項

特に落葉層や腐植層の厚い場所、湿潤な環境に多いことから、樹林や湿生林などが必要と思われる。

生活サイクル

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
出現期	■												
繁殖期				■									

興味深い話（トガリネズミ類を通して）

■トガリネズミはネズミと名がついているが、食虫目でモグラなどの仲間。ただし北海道にモグラ科に属する動物はいない。

■トガリネズミの腹にはジャコウ腺があって強烈な匂いを発する。

■積雪期にキタキツネなどがわずかに餌とする様だが、トガリネズミ類は強い匂いを発するためか、あまり他の動物に捕食されない様である。キタキツネやネコなどが春から秋の餌の豊富な時期にトガリネズミ類を捕らえて殺すが、食わずに放棄することがある。そのためか道端などで死んでいるものを見かける事がある。

■トガリネズミ類の毛はさわめて上質で、手で触れると

ビロードのように柔らかな触感がある。

■基礎代謝量が多く、活発に動き回るため、ほとんどの時間を食べる為に費やさないエネルギーがまかなえない。したがって、生捕り罠などにかかるとうちで死ぬ事が多い。

■エゾトガリネズミはトガリネズミの亜種。トガリネズミはユーラシア北部一帯に広く分布している。

■北海道にいるトガリネズミの仲間にはもう一つトウキョウトガリネズミがいる。これは世界で最も小型の哺乳類で、体重が2g前後だという。

■十勝地方のアイヌ語ではトガリネズミ類一般を「エトゥチケレフ」と呼ぶ。

参考文献

「日本の哺乳類」阿部永・石井信夫・金子之史・前田喜四雄・三浦慎悟・米田政明 東海大学出版会 1994

「北海道 森と海の動物たち」エコ・ネットワーク編 北海道新聞社 1997

「日本動物大百科1 哺乳類I」日高敏隆 監修 平凡社 1996

「フィールドガイド 足跡図鑑」子安和弘 日経サイエンス社 1993

「アイヌ語で自然かんさつ図鑑」帯広百年記念館編集、内田祐一・池田亨嘉、帯広百年記念館友の会 2004

魚類

底生動物

爬虫類
両生類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種) 草花

(外来種) 草花

哺乳類

(水辺) 鳥類

(草原・森林) 鳥類
ワシ・タカ